

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 1月 31日

事業所名 児童発達支援センターらいむの丘

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	14	7	・身体が大きい、動きが大きい児童を10名弱で活動しようと思うと、制限されるところもある。 ・子どもの様子から、1部屋で活動せず、しきりを使用して2部屋で活動している場合もある。 ・安全確保のため、1グループの利用定員(例:1グループ6名まで)や、一日のグループ数(例:児発も含め1日6グループまで)を定め、現在の数を減らすべきだと思う。 ・人数が増えてくると、狭く感じることもある。	
	2 職員の配置数は適切である	9	12	・保育士や言語聴覚士の職員定数が不足しながら、サービスを実施している。本部と連携を図り、採用募集は行っている。職員数の減少により、各職員の業務量が増えているため、時間外費用や年次休暇の推進を行っている。 ・子どもに目が行き届いていないと感じる時がある。 ・募集をかけているが、希望者が集まらない。 ・現在職員数が不足しているため、ぎりぎりの人数であると感じる。 ・安全確保のため、1グループの利用定員(例:1グループ6名まで)や、一日のグループ数(例:児発も含め1日6グループまで)を定め、現在の数を減らすべきだと思う。 ・余裕がない状態があり、気持ちが焦る時がある。 ・保育士数は不足しているように思う。すぐには人数を増やすことはできないので、訓練士も含めて総出で対応する必要がある。	・職員数は不足しているため、現在募集をしています。来年度は適切な人数を配置し、対応する予定です。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	21			
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	15	5	・優先順位をつけて、効率的に業務をすることが苦手な職員が多い。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	20		・分からない。	・自己評価について、その内容や改善点も含め周知していきます。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	18		・不明 ・分からない。	・施設内で掲示すると共に、ホームページにて公開しています。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	13	4	・第三者による外部評価は行っていない。 ・わかりません。 ・把握していない。 ・第三者の外部評価を行っているのか、理解していない。 ・分からない。	・第三者による外部評価は行っていません。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	21			
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	20	1	・アセスメントが十分に行われていないこともあり、改善していくべきことと感じています。	・適切なアセスメントが行えるよう、職員全体でアセスメントを行っていきます。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	12	7	・職員同士の口頭での話し合いが中心で、標準化された評価様式はなく、今後検討していくことが課題。 ・わかりません。 ・現在は使用していない。今後必要に応じて、ツールの選定、使用を試みていく。 ・分からない。	・標準化されたアセスメントツールは使用していませんが、発達の目安等を指標にして、子どもたちの様子を把握しています。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	19	1		
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	20	1		
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	16	5	・平日のみのサービス提供のため、課題内容は小集団の子どもの様子に合わせ都度内容を検討、実施している。 ・きめ細やかさまでには及んでいないと思います。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	19	1	・適宜とまでは達していないところはあると思います。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	21			
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	21			
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	20	1	・人によってスキルが違うため、スタッフ間の差が大きい。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	20	1		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	19	1	・ガイドラインがあるのかがわかりません。 ・分からない。		
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	21			
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	20	1	・毎回ではないが、保育所等訪問や見学時に情報共有を行っている。 ・送迎は行っておらず、連携は少ない。	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	16	2	・現在の利用児に医療的ケア児の契約は無し。 ・分からない。 ・担当するお子さんに該当する方がおらず、直接支援していない。 ・直接は支援していない。	
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	20	1	・すべてのケースではないが、必要に応じて行っている。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 1月 31日

事業所名 児童発達支援センターらいむの丘

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	14	6	・障がい福祉サービスへの移行利用児は現在無し。 ・対象となる利用児がまだいない。 ・該当する方がいないため、評価せず。 ・らいむからはまだ、卒業をして移行していく子が出ていない状況です。 ・把握していない。 ・対象者がいない。 ・開所間もなく小学生が多い為該当なし。	
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	21		・当センターが放デイ向けの事業所向け研修を開催した。	
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	10	9	・事業所内のみで活動。活動内容に学校のグラウンド等の利用等による機会も考え得る。その際は学校等の連携が必要となる。 ・保育所への交流は行っています。 ・不明	・現在はしていません。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	9	11		自立支援協議会には参加していません。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	19	1	・その都度おこなっているが、時間・回数ともに現時点よりも増やす必要がある。 ・日数が少ない為、日頃からはできていないと感じる。	
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	10	10	・家族プログラムは実施していないが、個別的な保護者の悩みに関して、保育士やリハビリ専門職が共同して、保護者が取り組みそうな、子どもへのかかわりを提案・助言している。 ・定期的に保護者様研修会は開催している。 ・トレーニングはしていない ・分からない。	
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	20	1	・事業所内では行っているが、まだ説明したことがない。	
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	21		・その都度行っているが、時間・回数ともに現時点よりも増やす必要がある。 ・運営規定や支援の内容等新規契約の際は行っている。	
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	15	4	・分からない。	・保護者様向けの研修会を定期的に開いて、保護者様同士の交流の場がもてるようにしています。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	21			
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	19	2	・会報等の発行は行っていない。活動概要は、毎回の放課後等デイサービスの帰りに保護者へ伝達している。 ・きずなネットで情報発信をしている。	
	35 個人情報に十分注意している	21			
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	19			
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	18	3	・放デイ単独では開催していないが、課の行事として、地域との交流が持てるイベントを開催している。 ・利用している家族等はわかるが、地域への周知がさらに必要であると感じる。 ・コロナ、インフルなどの感染防止のため、中断している。	・児発としては行っていませんが、福祉ヴェレッジ全体として行っています。
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	20	1	・保護者への周知はされていない。 ・保護者にまでの周知が整っていないように感じます。	・保護者様への周知は今後検討していきます。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	19	2	・放デイでは行っていない。 ・今後、定期的な訓練実施が課題になると思う。 ・訓練だけでなく、講演を聞くなども必要と感じる。 ・放デイではしていない。 ・児発の時間には定期的の実施しているが、放デイの時間では実施していないと把握している。	
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	19	2		
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	16	3	・今後記載となる。 ・計画書に記載するまでに至っていません。 ・分からない。	
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	19	1	・食事場が、サービス時間内がないので、児童発達支援利用児が放デイを継続している子のみ、指示書あり。	
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	19	2	・事例集は作成していないが、報告書を作成し、職員に周知している。	・報告書を職員間で回覧し、周知していきます。